

■普及所から⑦④■

これからの早生稲 管理について

●ナツヒカリの穂肥

ナツヒカリは良質の極早生として急速に普及している品種ですが、一穂着粒数が五十粒前後と少なく、逆に坪当たりの穂数が二千本以上と多い穂数依存型の品種特性があり、これからの管理次第で収量が大幅に変動しやすい品種です。

穂肥は通常六月八日・十日ごろ（出穂の二十五日前ごろ）に、小さな穂を少しでも大きくするため

に利用します。施肥量はNK化成で反当十・十五グラム、倒伏する一歩手前まで追肥で追い込む「肥満見育成型」の施肥管理が、多収のかぎのようです。とは言っても、極端な多肥は倒伏を招きますので、水田の条件に応じた多肥管理に努めてください。

また、穂肥前に葉色が薄くなりすぎると、分けつした茎が穂になり

る割合が少なくなり、穂数不足で減収します。これまでの調査では穂数の多い人は多収穂となっており、スムーズに分けつさせ、多肥栽培で穂数を多く確保することが大切なようです。したがって六月上旬にわずかに葉色が薄くなる程度に管理し、適期穂肥へとつないでください。

●低温障害（不稔）の防止

例年六月中下旬には、オホーツク高気圧の張り出しにより気温が低下することがたびたびあります。特に出穂十一日前を中心とした一週間ぐらゐが低温に最も弱い時期で、気温が十七度より低温になれば

なるほど、低温時間が長ければ長いほど障害を大きく受け、不稔もみが多くなります。このため、穂肥期前ごろから深水管理とし、田面水による保温効果で早朝の冷

え込みから稲を守ってください。

●黒点症状米の発生防止

出穂開花期にスリップスという小さな虫が、もみの中へ侵入すると、不稔もみ（赤ピセ）となったり、着色米（黒点症状米）となります。稲のスリップスは出穂前の農薬散布で簡単に防除できますが、

出穂後の防除はできません。したがって、スリップスがもみの中へ閉じ込められる前に、防除してください。

●その他

コシヒカリ等は、例年どおり穂肥の現地検討会で協議します。

【南国農業改良普及所】

南国歌壇

目なし地蔵の頭かすめて飛びたち
し 黄色き声の鳥を見失ふ

立田 島田美津子

老いし皆別府に集いラバウルの
空に散りにし戦友を慰霊す

大浦甲 島光則

奥土佐より出で来て端置きて住け
る 穂の若芽よ春ふけにけり

西野田 吉川定子

逝妻と花宴開きし公園に
鹿持先生の憂恋碑あり

久枝 徳久昌男

大土佐の浦戸の湾口にかかる橋
軸先に見つパッチ網こぐ

浜改田 西村繁行

見返れば糸植ふとく曲りいて
頭上の鳥かわかわと鳴く

西山 岩貞健一郎

南国柳壇

色男エイズにだけは太弱り
雨の日に花見に誘う下戸同志

前浜 大原正明

実一つで寂しいですと奈の花
三晶 井沢正子

里改田 田所千枝

冷蔵庫ひらけば小鉄ニヤンとなく
里改田 下総金子

南国俳壇

人の胸ぐるぐる巻いて扇の声
賜を開く主婦の手花の昼

おぼろ夜のごかに女忍者の眼
白梅や猫振り向ける眼の空ろ

小雀の啼く声や目直す
春驟雨同行二人雨やどり

蟹鍋に伏せられてゐる顔子草
黒髪をゴム輪で束ね磯あそび

しばらくは防風林に啼れり

和田幸郎 (宮村句会)

山岡みよ ()

瀧淵紀男 ()

岩崎佳江 (葉月会)

浜田美知 ()

沢本吉子 ()

桜井美代 (大狼俳句会)

中村一生 ()

木戸節 ()

